

2016年度事業報告

ミッション、中期目標、事業の2つの柱に則り、2016年度の主たる事業を次のように実施した。

1. チャイルドライン事業（中期目標1, 2, 3, 4, 5, 6）

子どもにより信頼されるチャイルドライン、子どもがかけやすいチャイルドラインを目指し、中期目標の実現のため、オンライン相談のトライアルで見た開設現場の課題と研修課題を共有し、取り組み、電話の質の向上と実施体制の充実を図る。

○ 統一番号フリーダイヤルの実施（通年）【厚労省補助事業】

【事業計画】全国のチャイルドライン実施団体と協働し、全国统一番号・フリーダイヤル（0120-99-7777）を実施する。実施体制の充実や大人による妨害電話への対策により、電話のつながりにくさを改善する。

- ・実施体制：毎週月曜日～土曜日 16:00～21:00（12月29日～1月3日は年末年始一斉休止）
 ※栃木県、埼玉県、東京都、山梨県、愛知県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、（6月から福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県）は日曜日にも実施
 ※栃木県、埼玉県、長野県は金曜日23時まで受付

<実施概要>

年間を通じてフリーダイヤルを実施した。月曜日から土曜日までは全国どこからでもかけることができる。電話は近くのチャイルドラインに優先的につながるが、話中や休みの場合には周辺エリア、全国の順で迂回し、空いている回線に入る仕組みとなっている。

毎週月曜日～土曜日 16:00～21:00（12月29日～1月3日は年末年始一斉休止）

日曜日受付：栃木、埼玉、東京、山梨、愛知、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、（6月以降）福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

時間延長：①金曜日23時まで：栃木、埼玉、長野 / ②土日15時開始：東京

③水曜日21時30分まで：東京

<実施結果>

（フリーダイヤル0120-99-7777に関する交換機上の通信データ。NTTコミュニケーションズのトラヒック調査ツールにより取得。 ※総実施時間はチャイルドライン支援センター調べ）

月別	発信数	着信数	着信率	平均通話	総通話時間	総実施時間※
2016年4月	48,119件	17,812件	37.0%	5分18秒	1,572時間	3,509.5時間
2016年5月	49,077件	19,402件	39.5%	4分51秒	1,567時間	3,505.5時間
2016年6月	52,648件	19,803件	37.6%	4分54秒	1,620時間	3,566.5時間
2016年7月	50,236件	17,932件	35.7%	5分35秒	1,666時間	3,455.5時間
2016年8月	48,373件	17,890件	37.0%	5分5秒	1,515時間	3,466.0時間
2016年9月	60,387件	15,991件	26.5%	5分42秒	1,519時間	3,543.5時間
2016年10月	46,229件	16,651件	36.0%	5分14秒	1,450時間	3,513.5時間
2016年11月	50,719件	17,158件	33.8%	5分8秒	1,469時間	3,436.5時間
2016年12月	40,719件	16,374件	40.2%	4分45秒	1,295時間	3,109.5時間
2017年1月	36,816件	15,675件	42.6%	4分42秒	1,226時間	3,060.5時間
2017年2月	39,806件	16,618件	41.7%	4分40秒	1,292時間	3,091.0時間
2017年3月	40,819件	17,937件	43.9%	4分50秒	1,444時間	3,355.0時間
2016年度	563,948件	209,243件	37.1%	5分10秒	17,635時間	40,612.5時間
1日平均	1,545件	573件			48.3時間	111時間

2015 年度	605,833 件	202,737 件	33.5%	5 分 36 秒	18,921 時間	42,267 時間
前年比	-41,885 件	+6,506 件	+3.6%	-26 秒	-1,286 時間	-1,654 時間
	93.1%	103.2%	110.9%	95.1%	93.2%	96.1%

・ 端末別：携帯電話（スマートフォンを含む）の利用率が 73.9%と過去最高

端末種別	発信数	着信数	平均通話	比率	2015 年度	前年比
固定電話	124,046 件	46,952 件	5 分 40 秒	22.0%	22.5%	-0.5%
公衆電話	23,081 件	8,976 件	3 分 49 秒	4.1%	5.8%	-1.7%
携帯電話	416,821 件	153,315 件	4 分 57 秒	73.9%	71.7%	+2.2%

・ 不完了：発信数（563,948 件）のうち受けきれなかった電話（355,318 件／62.9%）の内訳

時間外	話中	途中切れ	無応答	その他	不完了計
39,468 件	56,805 件	49,327 件	97,479 件	111,626 件	354,705 件
7.0%	10.1%	8.7%	17.3%	19.8%	62.9%

・ 都道府県ごとの発信／着信状況：（別添資料）

・ 曜日別（1 日平均）：月・水・金は着信率が比較的高く、火・木・日はつながりにくくなっている。

日付	団体数	最大時回線数	総実施時間数※	着信率	稼働率※
月曜日	17 団体	31 回線	147 時間	41.9%	42.0%
火曜日	17 団体	26 回線	117 時間	23.7%	44.0%
水曜日	20 団体	33 回線	143 時間	45.2%	47.5%
木曜日	15 団体	23 回線	105 時間	25.0%	51.6%
金曜日	17 団体	24 回線	121 時間	38.8%	49.3%
土曜日	17 団体	26 回線	126 時間	34.4%	43.0%
日曜日	9 団体	12 回線	52 時間	23.3%	26.4%

※稼働率は、「総実施時間」あたりの「総通話時間」の比率

・ 日曜日：6 月以降、九州 8 県でも日曜日の受付が始まり、毎日かけられる地域は 22 都県に広がった。

・ お盆時期：休みが多く、通常の 3 分の 2 の体制になってしまう日もあり今後の課題。

・ 妨害電話への取り組み

長期にわたり電話をかけ続け、子どもからの電話をつながりにくくする大人からの電話を「妨害電話」として、対応に当たっている。

・ 地域ごとの取り組み

地域発の取り組みとして、時間延長や受信範囲等を限定して地域の子どもの声を集中的に受けとめる試みが行われた。

【東京ネットワーク（都内 12 団体）】

9 月 1 日（木）～14 日（水）：受信範囲を東京都内に限定（※日曜除く）

【東海 3 県（岐阜、静岡、愛知の 5 団体）】

8 月 28 日（日）～9 月 3 日（土）：時間延長し 11 時から実施開始

【中国四国エリア】

9 月 1 日（木）～11 月 30 日（水）：発信／受信範囲をエリアに限定
（期間中、中国・四国 9 県からの電話は全国に迂回しない設定）

【九州エリア】

- ①8月31日（水）21時～9月1日（木）16時：24時間連続実施（交替制で実施）
 ②8月31日（水）～2017年3月末：熊本地震を受け、受信範囲をエリアに限定
 実施に際して、毎日どこかのチャイルドラインが電話を受けられる状態を目指して、
 団体間で実施時間の調整が行われた。

<通話料（月別）>

	2016年度	前年比	2015年度
2016年4月	¥1,583,261	¥-38,387	¥1,621,648
2016年5月	¥1,585,462	¥-91,773	¥1,677,235
2016年6月	¥1,609,877	¥20,844	¥1,589,033
2016年7月	¥1,623,301	¥-52,572	¥1,675,873
2016年8月	¥1,535,139	¥70,807	¥1,464,332
2016年9月	¥1,493,834	¥-157,547	¥1,651,381
2016年10月	¥1,446,586	¥-187,312	¥1,633,898
2016年11月	¥1,457,765	¥-126,116	¥1,583,881
2016年12月	¥1,315,800	¥-178,056	¥1,493,856
2017年1月	¥1,195,319	¥-208,908	¥1,404,227
2017年2月	¥1,307,792	¥-188,041	¥1,495,833
2017年3月	¥1,489,180	¥-107,894	¥1,597,074
2016年度計	¥17,643,316	¥-1,244,955	¥18,888,271
1日平均	¥48,338	¥-3,411	¥51,749

<子どもの感想等の集積>

ウェブサイト上で、子どもからの電話をかけた感想やチャイルドラインへの意見を募った。1年間で届いた感想は128件、意見は39件だった。またメール上で相談を求めるものが61件あった。

○ 電話データの集積（通年）

【事業計画】電話に寄せられる子どもたちの声を、チャイルドラインデータベースにより統計データとして集積する。入力に関わる作業はチャイルドライン実施団体が行うため、作業費用を支援センターで負担する。

- ・2016年4月から2017年3月までに受けた電話／チャットの記録が統計データとして集積された。
- ・新データベース運用開始：
2011年度以降利用してきたデータベースの統計項目を見直し、4月より新しいデータベースの運用を開始した。
- ・子どもの貧困に関するデータ集積【子どもの未来応援基金 未来応援ネットワーク事業】：社会問題にもなっている子どもの貧困について、貧困状況下にいる子どもたちの声を社会に届けていくため、データベースの改良を行った。（データ集積は2017年4月より開始）
- ・データの分析【競輪補助事業】：CHIが集積している全世界のチャイルドラインの年間データとの比較検証や、チャイルドラインの現場が感じている社会課題をデータで裏付けるための分析作業を行った。

○全国フォーラムの開催

【事業計画】10月22日～24日福島県福島市において全国フォーラムを開催する。

震災時における子ども支援ほかチャイルドラインの運営に関わる研修も行った。

- 10月22日 基調講演 シンシア・ホワイト「被災した子どものグリーフケア～今私たちにできること～」
参加者 151名
DVD 上映会 福島県立相馬高校放送局制作「今伝えたいこと(仮)」他
パネルディスカッション「震災から5年半、被災地の子ども支援を考える」
- 10月23日 分科会 参加者 170名 6分科会に分かれ、それぞれのテーマで研修を行った。
全大会 参加者 120名
- 10月24日 福島県沿岸部被災地スタディツアー ～原発周辺と子ども支援の現場を訪ねる～
参加者 49名

○ エリア会議【競輪補助事業】

【事業計画】中期目標の実現と、子どもにより信頼されるチャイルドラインを目指し、エリア会議を開催する。エリア会議では、エリアのあり方について協議する。

全国7エリアで12月、エリア会議を開催し57団体が参加した。「チャイルドラインの原点・ミッションから考えるエリアのあり方」をテーマに、議論をすすめた。

○ 全国運営研修【競輪補助事業】

【事業計画】全国運営研修を実施する。

子どもたちが生きやすい社会をつくっていくために、今後チャイルドラインとして活動にどう取り組んでいくかを考える場として、全国フォーラム2日目に全国運営研修を開催した。

- ・「持続可能な組織運営を目指して」：ボランティア団体の運営に欠かせない「人」と「お金」について。ボランティアのモチベーションをいかに高めるか、多くの方に支援を呼びかけるクラウドファンディングによる資金集めの意義などについて学んだ。(参加者10名)
- ・「アウトリーチプログラム」：いじめや自死の要因となる子どもの自尊感情の低下に対して、直接的にかかわれる支援のあり方の1つとして出前授業などで提供できるよう制作したプログラムを、全国に展開していくための学習会を開催した。(参加者29名)
- ・「オンライン相談の可能性」：電話では話しにくい子どもや、聴覚に障がいのある子どもでも、チャイルドラインを利用できるようオンライン相談を東京で試験的に行っており、今後全国に取り組みを広げていくための学習会を開催した。(参加者26名)

○ 全国運営者会議【競輪補助事業】

【事業計画】チャイルドライン支援センターの組織体制やエリアのあり方について、エリア会議の話し合いを踏まえて議論する。

60団体/79名が参加した。エリア会議での議論を踏まえ、支援センターからの「エリアのあり方」の提案について議論がされ、電話の質の担保のためにエリアで協力し合うことについての検討が進んだ。

○ 団体支援

【事業計画】必要に応じて実施団体を訪問し、組織運営について適切な支援を行う。

2実施団体を訪問し、複数の団体からの相談を受け付けた。

○子ども・若者参加

【事業計画】利用者である子どもの視点や意見をきく場を設け、各団体での子ども参加を促進し、チャイルドラインの今後の活動のあり方に活かす。

- ・全国フォーラムの分科会において、「子どもたちからの未来への提言(メッセージ)」として、高校生が参加した。また、パネルディスカッションにおいて、震災当時高校生だった相馬高校 DVD 制作メンバーがパネリストとして参加し、制作にかけた思いなどについて語った。
- ・ホームページ上で子どもからの感想や意見を受け付けた。
- ・子ども若者からの活動に関するインタビューを受けた。

○ オンライン相談の研修と試行【厚労省補助事業】【競輪補助事業】

【事業計画】子どもにとってより良いチャイルドラインを目指すため、前年度のトライアルの検証を受け、年間3回の研修とトライアルを行い、常設化について検討する。

中期目標「電話以外のツールを模索する」に基づき、オンライン相談の試行に取り組んだ。子どもからのニーズに応えきれないため、体制の増強を重要課題として受け手や支え手を育成していくために事前研修や事後研修に取り組んだ。また文字によるコミュニケーションの特性やチャットならではの手法の模索やシステムの見直し、今後の展開方法などの検討を、担当理事と試行参加者の委員によって構成するプロジェクトチームが中心となって進めた。

<受け手募集・研修の実施状況>

受け手の募集条件は経験を重視し、チャイルドライン実施団体で受け手を経験している方の中から募集し、専用の研修（10時間）を受講した方のみがオンライン相談の対応にあたる。

- ・研修内容は、事前研修がオンライン相談の特性を学ぶ座学5時間、ロールプレイや事例検討による実習5時間となっている。事後研修は主に事例検討を行った。

事前研修	8月20日	11月12日、13日	2月25日、26日
参加者数	13名（3月試行参加者）	新規6名	新規7名

<トライアル実施>

- ・1回目：8月29日（月）～9月9日（金）16時～21時 土日休み
※夏休み明け周辺、子どもの自死が最も多くなる時期に合わせての実施
- ・2回目：11月23日（水祝）～11月30日（水）16時～21時 ※虐待防止月間での実施
- ・3回目：3月13日（月）～3月20日（月祝）16時～21時 ※自殺対策強化月間での実施

<結果データ概要>

実施期間	1回目	2回目	3回目	2016年度計
のべ訪問者数	2,801人	1,449人	1,223人	5,473人
対応件数	140件	177件	129件	446件
平均時間	39分	33分	40分	平均37分
対応時間	5,509分	5,783分	5,117分	16,409分(273時間)
参加受け手数	19名/60シフト	22名/69シフト	26名/83シフト	のべ212シフト

第2回は、子どもの自死が9月1日周辺に最も多くなることに関連したメディア報道により、チャイルドラインが紹介される機会が増えたこともあって訪問者数が伸びたと思われる。

<システム、ウェブサイト改良>

チャットは1回あたりの対応時間が長くなること、実施体制が十分でないことから、子どもの待ち時間が長くなるため、その間にウェブサイト上で子どもが自分の感情に気づくための機能を追加した。またチャットシステムの改良も行った。

○ ガイドラインを作成する

【事業計画】ガイドラインを作成する（緊急ガイドラインを含む）

2017年度策定に向け、PTメンバー募集を開始した。

○ アウトリーチプログラム【厚労省補助事業】

【事業計画】社会に子どもたちの声を届けるため、プロジェクトチームを組み、2015年度に作成した子どもの自己肯定感を高めるプログラムのトライアルと実施を重ねブラッシュアップを目指す。また提供プログラムだけでは十分なメッセージを届ける時間の余裕がないため、参加する子どもに配布するための小冊子を作成する。

2015年度に制作したプログラム「聴いてみよう、話してみよう～わかりあうためのコミュニケーション」をブラッシュアップしていくため、児童館で子ども向けに試行しフィードバックを得た。また全国フォーラム2日目の運営研修ではアウトリーチプログラムの勉強会を分科会で持ち、全国各地から参加したチャイルドライン実施団体関係者にプログラムを紹介した。

<災害対応版の制作>

4月に発生した熊本地震を受け、急きょ災害後の子どものこころのケアを意識したプログラムをつくることとなった。避難生活などで大人に遠慮して自分の気持ちを抑えこんでしまう子どもが多くみられることから、色紙を使って気持ちを表現するプログラムを制作した。

<子ども向け冊子制作>

プログラムの中で伝えきれないメッセージや、「お互いに話を聴きあうことの大切さ」を子どもに伝えていくため、受講した子どもに配布する冊子を制作した。

<土曜学習応援団>

文科省で推進している「土曜学習応援団」では、様々な民間団体が提供している出前講座プログラムなどを紹介しており、教育委員会や学校向けに情報提供している。チャイルドラインでも連携が可能なかを打診するため、8月末に担当部署を訪問したところ、快諾をいただいた。（プログラム掲載は2017年度を予定）

2. アドヴォカシー（社会発信）事業（中期目標4、6）

子どもたちに心の居場所を提供し続けるため、企業や国に働きかけフリーダイヤル事業継続のファンを獲得する。また、子どもの生きやすい環境を整えるための法整備に向けた研究や、他団体や企業などとの連携、協働を模索し実行する。

○ 子ども向け広報

【事業計画】カード、ポスターの作成と空白地への広報を行う。

子どもにチャイルドラインの番号を知らせるためのカードやポスターを、学校や児童館などに協力いただきながら全国に配布できるよう、各省庁の後援を受けて「2016チャイルドライン全国キャンペーン」を実施した。

（後援：内閣府、文部科学省、厚生労働省、総務省、チャイルドライン支援議員連盟、日本医師会、公益社団法人日本小児科医会、社会福祉法人全国社会福祉協議会）

また2015年度の子ども会議での意見を受け、中高生向けカードデザインの色を赤からオレンジに変更した。カードやポスターの配布は主に全国のチャイルドライン実施団体が行っているが、チャイルドライン支援センターの広報活動としても、児童健全育成推進財団のご協力により全国の児童館（約

3,000 館)に、日本小児科医会のご協力により小児科クリニック (約 6,000 か所) に、それぞれポスターを配布した。

<空白県広報>

現在チャイルドライン実施団体のない 7 つの空白県 (山形、茨城、兵庫、香川、佐賀、熊本、沖縄) の子どもに向けた広報活動として、カードやポスターの配布に取り組んだ。2016 年度は各教育委員会を訪問するなどして協力を依頼の上、兵庫 (神戸市)、熊本、茨城、山形の学校にカード、ポスターを届けた。

またカード発送作業については、ご支援をいただいている企業との協働の一環として社員の方々にボランティアとして参加していただいたほか、近隣のチャイルドライン実施団体からもご協力をいただいた。

カードやポスターは、「子どもの未来応援基金」の助成により作成した。

地域	発送時期	カード枚数	ご協力
神戸市	9 月下旬	161,000 枚	東京海上日動(60 名様)
熊本県	12 月前半	251,000 枚	東京海上アセットマネジメント(150 名様)、東京海上ビジネスサポート(100 名様) 他
山形県	1 月下旬	135,000 枚	三和ホールディングス(10 名様) 他
茨城県	2 月下旬~3 月上旬	369,000 枚	東京海上日動(56 名様) 他
計		916,000 枚	

○ 被災地支援

【事業計画】被災地域への子ども支援を行う。

<熊本地震について>

4 月に発生した熊本地震をうけて、連休中に理事が現地の避難所や教育委員会などを訪問し、子どもたちの状況の調査と支援のあり方を検討する会議を九州エリアのチャイルドライン実施団体と協議した。その後、熊本県/熊本市教育委員会との調整の上で、5 月から 6 月にかけて県内全域の小中学校・高校・特別支援学校にカード 25 万枚を配布した。

なお配布活動に先立ち、全国のチャイルドライン実施団体に災害支援寄付を呼び掛けた結果、2016 年度に 29 名の個人団体から 58 万 4,938 円の寄付が集まった。(使途等については収支計算書に記載) ほか九州エリアの各団体でも助成金を申請してカード配布を行うこととなり、配布計画をチャイルドライン支援センターと協調しながら行っている。

○年次報告、ニュースレター等の発行

【事業計画】2016 年次報告を発行・配布する。また、ニュースレターを季刊で発行する。

<2016 年次報告の発行・配布 >【競輪補助事業】

2015 年度の電話データと活動をまとめ、社会発信を目的とする報告書を 3000 部作製し、支援企業、教育委員会、児童相談所、法務局、警察等の行政機関、弁護士会等の関係機関に配布した。

<ニュースレターの発行>

活動報告と支援のお願いのため、会員と支援者向けに季刊で発行した。(700 部×4 回)

○チャイルドライン支援議員連盟との連携

【事業計画】日本の子ども政策の改善やチャイルドラインの活動の発展のため、議連勉強会での連携や、周知活動、政策提言など継続的な働きかけを行う。また、子どもの権利を擁護するための法制化に向けて活動する。

2016 年次報告を国会議員全員に配布した。3 月 29 日勉強会を開催し、SDGs(持続可能な開発目標)の日本における子どもに関係する取組みについて、関係各省庁の担当者へのヒアリングを行った。

○子どもの生きやすい社会をつくるため、法整備の可能性などの研究を行う

アドヴォカシーPT を立ち上げ、研究の方向性について議論を重ねた。

○子どもに関するシンクタンク機能を持つための取り組みに着手する。

アドヴォカシーPT を立ち上げ、チャイルドラインとしての社会調査のあり方、方向性について議論を重ねた。

○世界のチャイルドラインとの関係づくり

【事業計画】世界大会へ参加して情報収集を行い、社会へ発信する。

世界大会への参加は見送った。

世界の子どもの声を集約するデータベースへのデータ提供を行った。

SDGs 持続可能な開発目標の実現に向けた CHI の提案に協力した。

○渉外活動

【事業計画】企業、他機関との連携、協働を模索し実行する。

チャイルドライン活動への理解を求め、プレゼンを行い、空白地広報のカード発送の協働など行った。

○資金調達

【事業計画】既存支援先への支援継続の働き掛けと、新規支援先の開拓を行う。

既存支援先企業を訪問し、2015 年度の活動報告と現状の課題、及び電話から見えている子どもたちの状況の懸念点と対応する 2015 年度事業の趣旨について丁寧に説明し、支援の継続のお願いをした。新規開拓においては、三菱 UFJ 信託銀行からのご支援をいただいた。

また、NHK の実施している「いじめを考えるキャンペーン」に協力し、E テレ学校向け番組「いじめをノックアウト」において制作したキャンペーンソングの著作権料がチャイルドライン支援センターへ寄付された。

○渉外活動と資金調達を実現していくための委員会を作る

ファンドレイズ PT を立ち上げ、ファンドレイズの方向性について検討を始めた。

支援先

日本電信電話株式会社様	株式会社 NTT ドコモ様
KDDI株式会社様	ソフトバンク株式会社様
MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ(三井住友海上)様	株式会社ケイ・オプティコム様
三和グループ社会貢献倶楽部様	公益財団法人資生堂社会福祉事業財団様
Share Happiness 倶楽部(東京海上日動)様	東京海上ビジネスサポート株式会社様
モルガン・スタンレー-MUFG 証券株式会社様	かけはし信託愛の基金(三菱 UFJ 信託銀行)様
NHK 出版株式会社様	一般社団法人ほのぼの運動協議会様
宗教法人 真如苑様	リンベル株式会社様 (カタログギフト)

株式会社ディ・エフ・エフ様	JFE ホールディングス株式会社様 (DFF アンケート募金)
DIC 株式会社様 (DFF アンケート募金)	カシオ計算機株式会社様 (DFF アンケート募金)
コクヨ株式会社様 (DFF アンケート募金)	サントリーホールディングス株式会社様 (DFF アンケート募金)
リンナイ株式会社様 (DFF アンケート募金)	株式会社カネカ様 (DFF アンケート募金)
株式会社ブリヂストン様 (DFF アンケート募金)	国際石油開発帝石株式会社様 (DFF アンケート募金)
清水建設株式会社様 (DFF アンケート募金)	大阪ガス株式会社様 (DFF アンケート募金)
中部電力株式会社様 (DFF アンケート募金)	東京ガス株式会社様 (DFF アンケート募金)
日本ガイシ株式会社様 (DFF アンケート募金)	宝酒造株式会社様 (DFF アンケート募金)
gooddo 株式会社様 (クリック募金等)	株式会社おそうじ革命様
株式会社佐藤建設様	日本石材産業協会様
シクミオ株式会社様	株式会社ラングランズ様
誰かのサンタ事務局様	リフルルネル有限会社様
南国サンタのおくりものチャリティー様	若松測量設計株式会社様
生野 裕子 様	津田 れい子 様
伊藤 伸 様	出川 寿一 様
内海 裕美 様	中田 立子 様
岡野 周子 様	中本 啓子 様
小山内 美江子 様	野田 美穂子 様
嘉悦大学経営経済学部・谷口ゼミナール 様	馳 浩 様
久禮 直樹 様	原田 宜昭 様
黒澤 浩樹 様	久野木 貞子 様
坂本 里美 様	前原 幸治 様
眞貝 助子 様	松坂 忠則 様
眞貝 緋奈子 様	水島 優里 様
菅谷 有槻子 様	宮村 文子 様
瀬角 南 様	村上 敏也 様
竹広 茂子 様	村田 典子 様
タナカ カズミ 様	山口 卓二 様
タナカ ヒトシ 様	山ノ川 実夏 様
千葉 洋子 様	由紀 さおり 様
チャイルドラインうさぎのみみ 様	吉永 小百合 様
塚田 裕太 様	ほか匿名寄付の方々

支援会員

浅川 周二 様	澤村 博幸 様	中根 博 様
石原 純子 様	末永 純子 様	中山 加代子 様
井上 隼 様	鈴木 崇之 様	野田 真澄 様
小栗 絢子 様	園部 真理 様	早川 洋 様
黒澤 浩樹 様	宝樹 真理 様	前原 幸治 様
佐々木 正人 様	田口 久志 様	増田 裕行 様
佐々木 洋 様	武内 一 様	松田 幸久 様
佐藤 宣貴 様	田中 昭彦 様	宮本裕之 様
更家 充 様	谷村 聡 様	山下 尚郎 様
澤口 佳乃子 様	辻 千秋 様	渡邊 智子 様
シクミオ株式会社 様	ストップイットジャパン株式会社 様	医療法人誠育会 様

全国フォーラム

<p><協賛></p> <p>福島テレビ株式会社様 福島民友新聞社様 カルチャーボランティアサークルことのは様 ロマリンダクリニック様 株式会社郡山南部佐藤新聞店様 (有)毎日民報郡山中央センター様 株式会社環境公害分析センター様 医療法人西口クリニック婦人科様 全国曹洞宗青年会様 アトリエ松江様 有限会社郡山北部販売センター様 NPO 法人ふくしまユニバーサルデザイン様 福島民報社様 株式会社テレビュー福島様 有限会社 苑様 株式会社ケンオリ様 株式会社いわき様 山本 祐司様 有限会社 考学舎様 福田こどもクリニック様 株式会社渡辺有規建築企画事務所様 優希シンシアティ株式会社様 エクシーズ株式会社様 森田小児科医院様 坪井病院様 塚田歯科医院様 郡山コミュニティ放送様 認定 NPO 法人さいたまチャイルドライン様 NPO 法人チャイルドラインみやぎ様 NPO 法人子ども劇場千葉県センター様 チャイルドライン支援議員連盟様 NPO 法人ビーンズふくしま様 公益財団法人 全国青少年教化協議会様 チャイルドラインこおりやま様 チャイルドラインふくしま様 神 仁様</p>	<p><寄付></p> <p>株式会社菅家経営センター様 合同会社地球と家族を考える会様 株式会社プロダクト・ワン様 週刊郡山社 ザ・ウィークリー様 あんどうこどもクリニック様 株式会社郡山南部佐藤新聞店様 (有)毎日民報郡山中央センター様 医療法人くろさきこどもクリニック様 曹洞宗 東日本大震災 災害対策本部 復興支援室分室様 曹洞宗 福島県青年会様 有限会社郡山北部販売センター様 高齢社会をよくする女性の会 郡山様 福島キヤノン株式会社様 国際ソロプチミスト原町様 桜井産婦人科医院様 村山医院様 有限会社 佐平様 大統寺様 吉成 夏子様 青木 千代美様 山中 努様 野中 瑛碩様 原 國雄様 糠沢 修一様 光明寺様 正法寺 渡辺様 認定 NPO 法人チャイルドラインさっぽろ有志一同様 認定 NPO 法人チャイルドラインさっぽろ様 水口 良子様 認定 NPO 法人さいたまチャイルドライン様 太田 久美様 村上 敏也様 久間 泰弘様 三門印刷所様 河村 建夫様</p>
--	---

災害支援寄付

<p>とくしまチャイルドライン様 チャイルドラインにいがた様 とやまチャイルドライン愛ランド様 いずみこども AID 様</p>	<p>NPO 法人チャイルドライン北九州様 NPO 法人ながの子ども城いきいきプロジェクト様 認定 NPO 法人さいたまチャイルドライン様 チャイルドライン千葉受け手ボランティア様</p>
---	---

チャイルドラインたちかわ様
NPO 法人こうとう親子センター様
NPO 法人あきた子どもネット様
NPO 法人八王子チャイルドラインコッコロ様
NPO 法人 CASN 様
NPO 法人チャイルドライン佐久様
チャイルドラインあいち T&M の会様
チャイルドラインかごしま様
チャイルドラインいわて様
チャイルドラインうえだ運営委員会様

NPO 法人しながわチャイルドライン様
認定 NPO 法人ひろしまチャイルドライン子どもステーション様
NPO 法人すわ子ども文化ステーション様
チャイルドラインみやざき 429DOVE チャリティーライヴ様
認定 NPO 法人チャイルドラインとちぎ様
NPO 法人チャイルドライン京都様
NPO 法人チャイルドラインあいち様
子どもサポネット「ハートフル」様
認定 NPO 法人チャイルドラインさっぽろ様
チャイルドライン岩国ステーション様
神 仁様